

研究主題

「自己を見つめ、他者を認め合い、よりよく生きる生徒の育成」
～「考え、議論する」授業を通して～

吉見町立吉見中学校

1 研究主題の設定理由

本校では、学校研究課題として、「自分の人権と他人の人権を大切にし、実践できる生徒の育成」をテーマに人権教育を推進し、同和問題の解決やいじめを許さない心の育成に取り組んできた。今回の研究を推進するにあたっては、これまでの人権問題解決への意欲だけでなく、正しい生き方とは何かを模索できる生徒の育成に取り組むことが大切であると考えた。「考え、議論する道徳」の授業を通して、他人の意見や考えに触れながら、自己を見つめ、よりよい生き方とは何かを考え、実践できる生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 生徒の「主体的な学び」を実現する授業を行えば、自己を見つめ（内省化）、他人との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- (2) 道徳科のみならず全教科で「考え、議論する」（主体的・対話的で深い学び）を実現することで、自分で考えるだけでは気がつかなかった多面的・多角的な考え方もつことができるだろう。
- (3) 指導と評価の一体化を図り、評価を積み重ねることで、教師の生徒理解を深め、道徳科の授業や普段の生活で、より効果的な働きかけができるようになり、生徒の道徳的実践力が育つだろう。

3 研究の経過

月日	研修会・授業研究会等	主な内容
4月中	研究推進委員会	研究テーマ、研究組織、研究計画の決定
6月15日	校内研修	「道徳科の授業改善を目指して」 講師：西部教育事務所指導主事 後藤 輝明 様
7月3日	研究授業	2年3組 飯島友里香 教諭 3年3組 森 広夢 教諭 指導者：聖徳大学名誉教授 吉本 恒幸 様
7月15日	研究授業及び講演	1年4組 岡本 耀 教諭 【講演】 演題：「考え、議論する道徳」 講師：文部科学省教科調査官 浅見 哲也 様
7月28日	公開授業研修会	1年2組 田辺 悠妃 教諭 2年4組 河野 桃子 教諭 指導者：西部教育事務所指導主事 後藤 輝明 様

〈様式2〉令和2年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

8月中	校内研修	指導案作成及び検討会
9月2日	公開授業研修会	2年1組 神田 泰佑 教諭 3年2組 渡辺 薫 教諭 指導者：市町村支援部義務教育指導課指導主事 山本 直人 様
9月15日	公開授業研修会	2年2組 吉野 順子 教諭 指導者：よしみけやき保育所 所長 利根川 勝美 様
9月25日	公開授業研修会	特別支援学級 椎橋さおり 教諭 梶田伊穂理 教諭 山口 敦 教諭 指導者：聖徳大学名誉教授 吉本 恒幸 様
10月6日	プレ研究授業	1年1組 浅野 純子 教諭 指導者：県立総合教育センター指導主事 原 卓範 様
10月7日	プレ研究授業	1年3組 柳 一成 教諭 指導者：久喜市立久喜中学校 校長 堀内 俊吾 様
10月14日	プレ研究授業	3年3組 谷口 啓子 教諭 指導者：西部教育事務所指導主事 後藤 輝明 様
10月21日	プレ研究授業	1年4組 田辺 悠妃 教諭 3年3組 松田 崇志 教諭 指導者：東松山市教育委員会指導主事 三浦 祐司 様
11月25日	ふれあい講演会	講師：パラアスリート水泳 西田 杏 様
11月27日	公開授業及び研究会	モデル校事業研究発表会 全学級公開 「こだわりの道徳授業」 講師：文部科学省教科調査官 浅見 哲也 様

4 研究の内容

(1) 授業研究部

① 指導案の雛形作り

「主体的な学び」や「考え、議論する」授業を実現できるよう、指導案作成上、留意すべきポイントを分かりやすく説明しながら、基本的な授業の雛型を作成した。

② 通知表・要録記入用評価

の文例提示

評価の記入例として「価値理解」「自己理解」「他者理解」「自己を見つめる」「多面的、多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」「個人内の

(3) 教材の特質や活用方法について

教材の構成の特徵や、授業で工夫する内容、具体的な活用方法などを記述する。そのことの意味や期待される効果に触れても良い。

4 学習指導過程			
段階	学習活動(主な発問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1・・・をする。 教師の発問の言葉で書く。		・準備や配慮すること、活動の意図や目的などを述べる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 (1) (2) (3) 3 本時の学習課題について自己を見つめる。	自分の姿を振り返ったあとに、考えをさらに深めさせる。	☆・・・としている。 (ワークシート) (評価する手段を示す) 学習指導過程の中の評価の視点は、6の評価より具体的に記入する。

〈様式2〉令和2年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

成長」の7つの視点で書かれた文例を用意し、初めての道徳科の評価に戸惑う教師の手助けとした。

【前段】 全体的な取組状況 【後段】 具体的なエピソード 26文字×4行=104文字

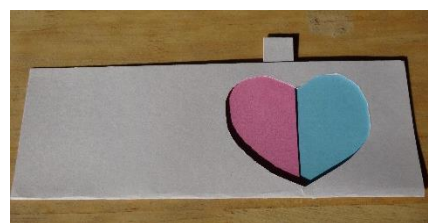
		前段	後段
1	価値理解	道徳の授業を通して学んだことが、人としてよりよく生きるために大切なことであると実感していました。	特に「〇〇」の学習では、△△の大切さを実感していました。 特に△△について考えた時間では、「×××××」という思いを強くもっていました。
2	人間理解	道徳の授業を通して学んだことの大切さを理解していましたが、学んだことを常に実現することの難しさにも気づいていました。	特に「〇〇」の学習では、△△は大切ですが、いつもそうあることの難しさについても考えを深めていました。
3	他者理解	道徳の授業を通して学んだことの捉え方が、人によって異なることもあると理解していました。	特に「〇〇」の学習では、△△には人によって様々な見方や考え方があり、それぞれ捉え方が異なることに気づいていました。

③ 「振り返りシート」の作成

生徒が「自己を見つめる」ことができるよう、振り返りシートに「今まで…」という欄を作った。内省化させる発問を行い、道徳的価値を自分自身とのかかわりの中で深めることができた。

④ 教具の工夫

心情を示す表示札を使うことで、教員が立場の異なる考えをもつ生徒を意図的に指名することができるようにした。



(2) 調査研究部

○ 道徳意識調査の実施と分析

生徒の実態や変容を把握するために、道徳に関するアンケートを年2回実施した。「道徳の時間は大切だと思う」「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」などの道徳科の授業に関わる事項に加え、実践意欲の向上などを調査した。また、各学年の生徒の実態に応じた「彩の国の道徳」の教材を選択し、年間指導計画に位置づけた。(年間2回)

道徳意識調査

調査日：7月 日() 年 組 番号前

次のことについてあてはまる番号に『○』をつけてください。

No.	質問項目	(4) とても大切	(3) 大切	(2) どちらでもない	(1) 大切でない
1	道徳の授業は大切だと思う。	4	3	2	1
2	道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	4	3	2	1
3	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある。	4	3	2	1
4	自分には、よいところがあると思う。	4	3	2	1
5	将来の夢や目標を持っている。	4	3	2	1
6	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。	4	3	2	1
7	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	4	3	2	1

(3) 環境整備部

① 「道徳通信」の掲示

学んだことの振り返りを常時できるように、各学年で「道徳通信」を毎月発行した。

② 校内掲示の整備

生徒の心が落ち着き、生き方・在り方を考える生活空間を創出するために、各学級に道徳コーナーを設置した。



〈様式2〉令和2年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

(4) 学校行事連携部

- 道徳科の授業との関連を意識して指導する場として、学校行事・学年集会・学級活動を、道徳の内容項目を指導し生徒の道徳性を養う場とした。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

① 職員の道徳科の授業への意識の高まり

道徳科の授業について、担任だけでなく、副担任や教務主任もローテーションで授業を行った。どの価値項目と教材を行うか一覧表を作成したことで、自然と授業内容や生徒の様子、発問が良かったなど職員室で道徳の話題が増えた。指導案検討会では管理職も加わり、熱心な検討会となった。また、研究授業の前に職員を生徒に見立てた模擬授業を実施し、効果的な発問について研究を行うなど、職員の「より良い道徳科の授業」への意識の高まりがあった。初任者研修における道徳科の授業研究会にも毎回、多くの職員が参観し、研究協議を行うことができた。

② 「内省化」を目指す授業の確立

昨年度は、考え議論しながら「ねらいとする道徳的価値」についての理解を深め、最終的には「自分事として考える(内省化)」を目指すという道徳の授業の流れを授業の一つの型として、生徒の多様な考えを引き出すための発問構成を研究した。今年度は、教材研究シートを用いて中心発問・補助発問のレベルを高め、生徒の心をより揺さぶる授業を行った。

③ ワークシートの工夫

昨年度、「書く道徳」から「考える道徳」への質的変換を図るための、ひとつの方法として、「内省化を図る発問」の1つのみ書くようにワークシートを工夫した。今年度は内省化を深める発問について学年会でも入念に検討した。

④ 「規律ある態度」の育成をとおした「吉見中ブランド」の確立

「吉見中ブランド」として、長年「あいさつ」「返事」「清掃」「読書」をスローガンに「規律ある態度」の育成に力を入れてきたが、教職員が道徳教育に一丸となって取り組むことで、生徒の実践意欲がより高まった。

⑤ 生徒の変容について

「内省化」は当初、反省文みたいで自己肯定感を下げているようであったが、自己を深くみつめ、その価値を大切にしようとする態度がワークシートに見られるようになった。学年にもよるが、グループで出た意見に対して質問や疑問、さらに価値を高める発表が行われるようになり、教材にのめり込んで他の人の考えを、自分の中に落とし込むことができる学級が醸成されつつある。

(2) 課題

「ねらいとする道徳的価値」について、考え、議論するとき、生徒の本音を「引き出し」、生徒の考えを「揺さぶり」、生徒の反論や意見を「つなぐ」ことにより、理解を深めていく授業を行うことができる。昨年度は職員も生徒も慣れておらず、自分の考えを書き、それを小グループ内で発表する形が多かった。今年度はホワイトボードから脱却し、即興で生徒の意見や考えを繋いでいく職員が増えたが、引き続き「バレーボール型」で授業できる教職員と生徒の育成が必要である。